

その他

やってみよう から 徐々に現実のものへ (2015. 11. 10 大阪より H. M.)

溶けた金属を冷やしたら固まって固体になる。当たり前のことだが、この冷やし方次第でアモルファス（非晶質）になるとは！金属の粉末を燃焼ガス中に吹き込んで溶かし、途中から急冷してターゲットの基材に当てたら、アモルファスの皮膜が出来てしまった。本来であればとうに固まっている温度のはずが、あまりに冷却速度が速いため結晶化する間が無く、液体状態で基材に当たり、付着し積層していく。冷えて金属の粉末に戻り基材に当たって飛び散る訳ではなかった。それでは、アモルファスの皮膜をつけたパイプを造ろうじゃないか！錆にも強そうだし。ところが、なかなかそうは簡単にはいかない。基材と



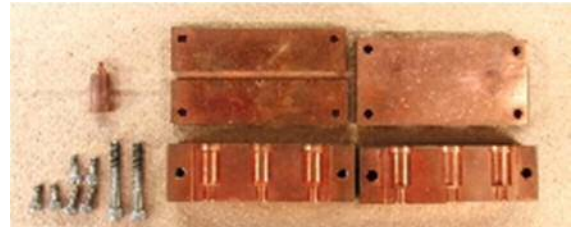
皮膜の伸び率の違いで、そんなに高い温度からではないのに室温に近づくと、ペキッペキッと音がする。割れて基材から剥がれてしまった。これじゃ皮膜として使えない…。色々工夫しても巧くいくもの、いかないもの。ハッとした。

『どっちみち付かないのなら、剥がしてみたら。』剥がしたらアモルファスの薄い板になる。耐食性に優れた薄い板、使い道はあるのかなあーと悩むまでも無く、導電性があれば今話題の燃料電池用セパレータに使えそう。低鉄損の鋼板にもなりそう。色んな用途があるみたい。(写真：アモルファス（非晶質）薄板剥離サンプル)

得てして、いつもの思いで気付かず見過ごしてしまいそうな現象も、なんとなく変だなとの思いが湧いて来たら、今までの常識を変え得るものがそこに見えてくるのかも。

現場を知ること (2015. 9. 10 姫路より K. A.)

先月、出身校の同期数名と久々に梅田で一杯酌み交わしました。その中に、「俺が高炉を動かす！」と豪語しながら卒業した同期が来ていて、今も高炉のある現場（事業所）で活躍していることを知り、自分のことのように誇らしく喜びすぎてしまうことがありました。一方、その頃、多忙であったこともあります。私は今まで起こさない



ようなミスを連発しておりました。最初は何でこんなミスと思っていたのですが、根本的にここ数か月自分がおかしくなっていることを認識するに至りました。仕事上、鑄造用の金型を作ることが多いのですが、先日書いた図面の金型は、本当に単純な金型。それでも、加工担当の方から、「ここは加工できないね～、現場を知らないから。。。」の一言。がつんと殴られたような一言でした。ここ数か月を思い返すと、現場は何回も見ているのに、その状況を少し考えたり、現場に合わせて少し計算したりすることを疎かにして生じたミスばかりです。現場を分かっているつもりでいて、その状況を考慮し実践できていない自分が恥ずかしくなりました。学生時代から今に至るまで、製造現場や開発現場に携わる方々の職人技、心意気に助けられてきました。これからも助けて頂くためにも、今一度、現場を本当に知り、それを発展させることを念頭に、「ものづくり」を実践して参りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。(写真：私達が使う金型の一例) 追伸：この原稿を書き終え帰宅すると、TVから「今から現場直行だ」とドラマの音声。あまりのタイミングの良さに、「そうそう現場が大事！」と呟いてしまいました。

大学猫を考える (2015. 2. 20 堺より R. I.)

府大構内、ふと気が付くと猫たちがいくつかの決まった場所にたむろしています。研究や実験の合間にその愛らしい仕草に癒されている方も多いと思いますが、今、この大学構内に生息する飼い主のいない「大学猫」が問題になっています。主な問題は糞害、騒音、時には人への被害など。大学関係者はもとより、周辺住民が餌を与えるため、その数は増える一方です。ただ、被害があるからと理不尽に排除するのではなく、どうしたら人と猫が共生できるかについて、同じ問題をかかえる全国の多くの大学生が真剣に考え、活動に取り組んでいます。大阪府立大学でも昨年12月13日に「第1回 大学猫を考えるシンポジウム ～大学猫とのつきあい、どうしてる?～」を開催し、横浜国立大学、京都府立大学、早稲田大学、京都大学、同志社大学、立命館大学等参加のもと、活発な意見交換が行われました。小さい命を尊重し共生するため、その個体数を調査し、不妊去勢手術を施し、糞尿対策を行う。「大阪府立大学ひと☆ねこサークル」の活動成果が実を結び、動物と人とが互いに居心地良く過ごせる構内になる事を切に願います。大阪府立大学ひと☆ねこサークル <http://www.hitonekoopu.com/>



3月になりました (2013. 3. 4 仙台より Y. T.)

今年の冬はとても寒く、例年以上に春を待ち遠しく過ごされた方も多いのではないのでしょうか。先日出張で関西へ行ったのですが、その週も日本列島に寒波が訪れていたらしく、皆さんが口々に「寒い」と仰っていました。仙台から訪問した私たちでさえとても寒く感じられたのですから、お住まいになっている方々にとってはかなりの寒さであったと想像ができました。そんな寒さの中、驚いたのは皆さんの心遣いの温かいことでした。道で地図を見ていると「どこいくん?」「なに探してはるん?」と声をかけてくださいます。買い物の際にお店の方にちょっとばかりの質問をすると、ご自分の利益に関係がないところまで丁寧に詳しく教えてくださいました。滞在中は、身体は寒くはありましたが、心は温かくホッパホッパで過ごすことができました。暖かくなったら、プライベートでゆっくりと関西を訪れたい気持ちでいっぱいです。関西の皆さん、ありがとうございます!!! 追伸：金研では2月末に広報誌「IMR NEWS」70号を発行いたしました。今号のセンター紹介は関西センターです。表紙も関西センターが飾っています。「IMR NEWS」はインターネットでもPDF形式でご覧いただけますが、金研広報班にお問合せいただければお送りすることもできますので、ぜひお手に取ってご覧ください。IMR ニュース 70号：http://www-lab.imr.tohoku.ac.jp/~pro/imr_news/pdf/imrnews70.pdf



技術力が与える感動 (2012. 4. 10 姫路より Y. H.)

先日、久しぶりに姫路駅の新幹線ホームに降り立ちました。最近、この場所が外国人観光客の人気スポットになっているそうです。人気理由は、姫路駅が日本一新幹線の通過速度の速い駅であり、高速で走り抜ける新幹線を間近で見ることができる場所であるということです。そして、新幹線が走り抜ける様子がニュースや動画サイトで紹介され、人気広がっているようです。私も、その様子を見ようと通過する新幹線を待ってみました。そして、通過する16両編成のN700系“のぞみ”が遠くに見えたかと思うと、次の瞬間「あっ」という間に走り抜けていきました。手元の時計で通過時間を計ってみると、僅か5秒程度。ちなみに、N700系“のぞみ”16両の全長は404.7mですので、それが5秒で走り抜けるときの速度は約291キロ毎時(!)になります。颯爽と走り抜ける新幹線は迫力満点で、ホームから離れた線路を走っているにもかかわらず思わず後ずさりしてしまう程でした。高度経済成長期には、日本の技術力の高さを象徴する乗り物であった新幹線。今なお、そ



の高い技術力で世界に感動を与え続けていることは、とてもすばらしいことだと思いました。姫路駅にお越しの際は、新幹線ホームにて 300 キロ近くで通過するその速さを体感されてみてはいかがでしょうか。

東西新聞事情 (2012. 4. 2 仙台より K.S.)

「いりません、結構です」、こう答えると相手はいともあっさりと帰って行った。あまりの潔さにこちらが驚いた。仙台に転勤してすぐの頃の、新聞の勧誘の話である。以前、大阪に 15 年住んでいた。新聞購読の勧誘は日常茶飯事だった。とくに大手全国紙の A 社と Y 社の勧誘合戦は熾烈を極めた。学生の頃など、夜の 11 時でもやってきた。玄関先で何度断っても、キャンペーン中だとか、いまなら〇〇がサービスだとか、△△欄が他紙と比べて優っているだとか、果ては新聞が社会に果たす役割云々まで、どの販売員も各自持てる限りの話術を駆使して、あの手この手、購読を迫ってきた。とにかく断らせまいと必死である。こちら慣れっこである。のらりくらり「結構です」と言いつつ、なにか好条件でも出てこないものかと様子をみている。いらなければ断るまでである(次々と勧誘に来るから)。ところが、である。冒頭述べたように、販売員があっさりと帰ってしまったではないか。一度断ると、二度と来なかった。その後やってきた他社の販売員も皆同様。ずいぶんとあっさりしている。いったいどうやって販路を拡大しているのだろう、心底驚いた。全く文化が違うことに気がついた。しばらくして新聞を読みたくなった。でも待っていても勧誘は来ない。やむなくこちらから販売店に連絡することとなった。こんなことは生まれて初めてである。今では地元の K 紙を購読している。

自転車通勤 (2011. 12. 01 仙台より K.N.)

仙台では、震災以降、自転車通勤者が増えています。かくいう私もその一人。自転車は雨風に弱いという弱点はありますが、メリットの方がかなり多いと感じます。電車の時間に縛られることはなく、渋滞もないし、燃料費もかかりません。また、今の季節になると仙台の朝はだいぶ冷え込みますが、ぼかぼかした体で、頭がさえた状態で仕事を始めることができます。自転車通勤を始めたおかげで、ただ過ぎていた通勤時間が、すごく有意義なものになりました。これからも、事故に気をつけて、マナーを守って、片道 9km の自転車通勤頑張りたいですね。メタボ気味の方には是非おすすめします！



堺発: あったかい出来事 (2011. 09. 20 M.S.)

大阪に来て 3 年目になります。3 年前は、まさか自分が関西に住むことになるなんて思ってもいませんでした。同じ日本とはいえ、文化が全く違う関西圏、もちろん知り合いも親戚もいません。こんな所で生活していけるのか？そんな不安な日々を過ごしていたある日、南海高野線のとある駅の券売機の前でおばあちゃんが路線図を見ながら悩んでいました。そこに、スーツを着た若い男性が「どこ行くん？」って声をかけて、一緒に切符を買ってくれました。このシーンは、忘れられない大阪での「あったかい出来事」の一つです。



堺発：今どきのラジオ体操（2011. 8. 22 Y. M.）

小学校が夏休みに入り、子ども会のラジオ体操が始まった。

第一日目。私も一緒に公園に行ってみると、たくさんの子供が集まっていた。懐かしく、微笑ましい光景だ。やがて体操が終わり、子供がもらってきたハンコを押してもらったカードを見ると、某ハンバーガーショップ発行のものだった。『？これがカード？』と聞く私。『うん！はんこを集めたらポテトをもらえるんやって！』とうれしそうに言う子供。この状況に当惑した親は、私だけだろうか？行けばポテトをもらうだけでは済むまい……。聞けば何年前からこうだそう。子供が楽しくラジオ体操を続けられるのならよし、というところか。



仙台発：プロ意識の欠如が国家を滅ぼす（2011. 8. 3 紙川尚也）

プロ意識の欠如した日本人が増えてきたのではないかと最近よく思う。レストランやコンビニなどのお店で、面倒くさそうに横柄に接客をしている従業員が多い。「やる気がないなら、やめてしまえ！」と言いたくもなる。正社員だろうがアルバイトだろうが、仕事に対する誇りとプロ意識を持っていただきたい。その最たる例は、どこかの国の首相だ。金と権力にすがりついて政治をやっているようでは、国民の信頼を得られるわけがない。彼らを反面教師として、我々は自らの社会における役割を見失うことなく、誠実さと謙虚さを持って日々の生活に精進せねばならない。